

北上市総合計画 2021～2030 令和7年度基本施策事後評価シート（評価対象期間:令和6年度）

基本方針	1.すべての人が活躍できる環境づくり
基本施策	3-1.生涯にわたる豊かな学びの場づくり
関連するプロジェクト	3.地域をつくる文化芸術・スポーツプロジェクト

活発な市民活動や充実した文化施設、豊かな自然及び伝統的な文化等、本市独自の資源を最大限に活用し、市民が生涯にわたって活躍できる生涯学習環境の形成を推進します。

評価項目	A	順調
	B	概ね順調
	C	やや遅れている
	D	遅れている

総合評価
B

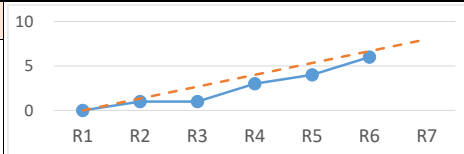
※達成状況評価欄の（ ）内については昨年度の評価結果です。

R6事後
5

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)		成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象:R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
									市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
1	企画 部		市史編さん事業の 推進	「北上市史編さん基本計画」に基づいた各巻の発刊スケジュールの進捗管理を定期的に行いながら市史刊行を推進するほか刊行の周知と市民への協力を情報発信していく。 また、事務局と各編さん委員(部会員を含む)との情報共有を図り、計画的な刊行を行う。	①	指標に基づく事実	・「北上市史編さん基本計画」に基づき、「資料編現代」と「特別編民俗」を刊行した。 ・「資料編近代」の年度内刊行が難しくなったため、基本計画(刊行年度)を変更した。	B	指標に関する内容	(刊行済) ・全体構成や校正回数を変更するなどし、刊行スケジュールに影響がでないように対応した。 ・部会を開催するなどして執筆者との連絡を密にし、校正作業を進めた。 (刊行延期) ・執筆者からの原稿提出が遅れたことで付属する部分の資料が揃わなかった。	指標に関する内容	執筆者である部会員の退任や体調不良により、他の部会員に急遽原稿執筆をお願いすることになり、原稿提出に遅れが生じた。	◇「資料編近代」、「通史編1 先史・古代・中世」の年度内刊行に向けて校正等の作業を進める。R8年度刊行予定の「通史編2 近世」、「通史編3 近現代」の原稿の入稿に向けた準備をスケジュールを確認しながら行っていく。(R7年度刊行:2冊)  ◆基本計画に基づいた刊行に向け、準備を進める。 (R8年度刊行:2冊 市史全10冊刊行終了予定)
						指標以外の事実	市民大学の2講座(民俗・近代)を担当し、市史のPRをした。(2講座の参加者:延べ150人)	(B)	指標以外の内容	・講座に合わせて、市史のPRができた。 ・生涯学習文化課と連携して実施することができた。	指標以外の内容		
2	まちづくり 部	●	多様な社会教育への 対応	市民が主体的に参加するきっかけとなるような講座の開催や情報提供を行う。また、各地区交流センターや企業等と連携し個人のライフステージに応じた多様な講座の開催のほか、共生社会の実現に向け障がい者の生涯学習の推進のための取組みを実施する。 地域で活動している生涯学習推進員を対象とした研修会を実施し創意工夫のある講座の開催につなげることで、社会教育を基盤とした地域内の人材育成を図る。 生涯学習事業を通じて、市民が地域の持つ様々な資源の魅力を知り、その魅力を育てて発信することで地域への愛着と誇りの醸成が図られるように、地域、学校及び行政が連携し、学びの機会を創出する。	②③	指標に基づく事実	②出前講座の参加者は、期待値を下回っているもののR5年度と比較すると431人増加した。 ③市民大学の参加者にアンケート調査を行った結果、講座の内容を「理解できた」と回答した人の割合が89.0%であり、概ねの参加者が講座内容を理解しており、市民の学びの機会の創出及び推進を図った。	B	指標に関する内容	②出前講座については、市HPやパンフレット、説明会などを利用し、講座内容について市民へ周知を図ったことが参加者の増加につながった。 ③市民大学については、現代的課題につながる防災や共生社会の実現に向けた障がい者の生涯学習に関連する講座を取り入れたことで、参加者の増加につながった。また、講座内容が重複しないように幅広い分野の生涯学習事業の講座を開催した。	指標に関する内容	②各種感染症や夏場の気温の上昇による影響もあり、各地区交流センターや各自治公民館で実施する社会教育活動が従前のレベルまで戻っていない。	◇出前講座については、多様な市民ニーズに対応するため、人気のある分野などの新たな講座を開拓。またデジタルサイネージを活用した講座の申し込み方法の周知、オンラインによる申込受付を実施。  ◆地域の担い手不足が深刻である現状において、各地区交流センターで実施する生涯学習事業については、本来の目的や意義に基づいた事業の実施や地域課題に応じた事業展開が必要であり、市が担うべき役割を果たしながら、「公民館機能」を取り戻すことで、地域における「人と人とのつながりづくり」を進める体制を構築していく。
						指標以外の事実	各地区交流センターにおいて、地域の特色にあった生涯学習事業を推進し、学びの機会を創出した。	(B)	指標以外の内容	・地区交流センターの生涯学習推進員及び地域学校協働活動推進員の合同研修会において、地域学校協働活動を活用した「人づくり・地域づくり」についての研修を開催し、地域の特色にあった事業の実施を後押しした(16地区で計20名の職員が参加)。	指標以外の内容	・地域づくり組織が行う生涯学習事業は、地域の特色ある事業や講座を展開しているが、参加者の高齢化や固定化が進んでいることが課題となっている。 ・生涯学習事業については、市の指定管理事業を交付金事業としたことで、各地区で実施する事業の自由度が高くなった一方で、社会教育・生涯学習事業の本来の目的の一つである「人づくり・地域のつながりづくり」の役割が失われてきており、地域の担い手不足が深刻な問題となっている。	
3	教育 部		読書習慣の 定着化	図書館においては、生涯における読書の習慣の基礎となる幼少期(子育て期)から本に親しむきっかけとなる機会の提供、家庭環境の違いなどによらない読書習慣の定着を図るとともに、読み聞かせや、お話し会の事業を推進する。	④	指標に基づく事実	絵本の貸出数は84,164冊で、R5年度と比較して365冊の増加。	A	指標に関する内容	・子どもを対象とした事業を重点的にを行い、スタンブラリー等、何度でも楽しめ、再来館を促す仕組みを取り入れている。 ・幼稚園保育園の団体貸切サービス、4カ月健診時に親子に絵本と読み聞かせの体験を提供するサービス、名作絵本コーナーの新設、定番絵本の買い替えなどに取り組んでいる。 ・R2年度から一回あたりの貸出冊数を5冊から10冊とした。	指標に関する内容		◇子どもを対象とした事業を中心に、利用増に繋がる事業や展示を実施する。また、幼児向け絵本の購入冊数維持に引き続き力を入れ、資料収集と整備を行う。
						指標以外の事実	入館者数は191,696人で、R5年度と比較して13,380人の増加。	(B)	指標以外の内容	・子どもを対象とした事業をはじめ、幅広い世代を対象とした事業を行っている。 ・貸出者数、入館者数(新聞の閲覧や席の利用など、本の貸出を伴わない利用も含)ともにR5年度より増加している。	指標以外の内容	・家族単位での来館者が多く見受けられるようになった。 ・高齢者の居場所や、中高生の学習の場として利用されている。	

No.	担当 部等	プロ ジェ クト	推進方針(R6)	成果 指標	推進方針に対する達成状況(対象：R6)		達成状況 評 価	達 成 状 況 に 至 る 要 因 の 分 析				今後の方向性(達成状況及び要因分析から導かれること) (◇:R7/◆:R8以降)
								市の活動による影響(内部要因)		社会環境の変化等による影響(外部要因)		
4	教育 部	●	親しみが もてる社 会教育施 設へ	⑤	指標に 基づく 事実	【博物館】 小中学生の入館者数は1,290人であり、前年度の1,899人に対する達成状況は68%であった。(R5比609人減) 【鬼の館】 学校行事においての見学者数の増加、支援学校による面色塗り体験者の増加により、小中学生の利用者数が増加し次世代への継承を推進することができた。	B	指標に 関する 内容	【博物館】 夏から秋にかけて小学生向けの企画展を開催し、親子や学校単位での来館を期待したが、期待値2,000人には届かなかった。(本館…ものがたりの道具展、小中学生603人、分館…文学作品に登場する昆虫展、小中学生145人) 【鬼の館】 見学・面塗りの際に分かりやすい解説や指導を学芸員・研究員が行うことにより、次の見学へ結びつけることとなった。	指標に 関する 内容	【博物館】 小学生向け企画展開催期間中の小学校単位での見学が減少している。(R6…8団体、R5…10団体、R5比2団体364人減)カブト・クワガタが人気のテーマになっている。	【博物館】 ◇学校・学童等の団体単位で来館してもらえる企画展を実施していく。 ◇人気のテーマを取り入れた企画展を実施していく。 ◇DX手法を活用した発信とともに、親子が来たくするようなコンテンツ(ポケモンとのコラボ等)を開発・実施していく。 ◇小学生向け企画展開の小学校単位での見学が減少している要因を把握するため、市内小学校へアンケートを実施する。 【鬼の館】 ◇豊富な資料の収蔵、保存を行うと共に、鬼の館においては、芸能公演や講座を実施し、民俗芸能の保存と次世代への継承を推進する。 ◇常に最新の郷土の歴史・文化の情報を収蔵品管理システムのDX手法も活用して研究・発信し続けることにより、社会教育施設の利活用を通して、郷土の歴史・文化に対する興味関心を深め、シビックプライドの醸成につなげる
					指標以外 の事実	【博物館】 博物館全体の入館者数は14,224人であり、前年度の12,489人に対して14%増加した。(R5比1,735人増) 【鬼の館】 ・芸能公演や講座を実施し、民俗芸能の保存と次世代への継承を推進できた。 ・30周年事業として、記念シンポジウムや公演を行い鬼の館の魅力を発信できた。		指標以外 の内容	【鬼の館】 協議会・保存会との打合せを密に行い、観客への分かりやすい解説や講座を行った。また、ホームページ等による広報も行った。	指標以外 の内容	【博物館】 さくらまつり期間中の入館者が増加した。(R6…4,399人、R5…2,907人、R5比1,492人増) 【鬼の館】 県外の雑誌等への掲載により芸能公演の来館者が増えた。	
5	教育 部		社会教育 施設の来 館者サー ビス向上	⑥	指標に 基づく 事実	【博物館】 アンケート回答者の満足度は高い値(93%)を示している。 【鬼の館】 来館者へのアンケート結果のおもしろかったと回答した値は79%と前年より上がっているが、期待値・目標値までには達成できなかった。	B	指標に 関する 内容	【博物館】 ・常設展・企画展ともに最新の調査研究成果を盛り込むようにしている。 ・企画展では様々なテーマを扱い、多様な興味・関心に応えるようにしている。 【鬼の館】 ・30周年記念によるエントランスの展示替えや芸能公演により、アンケート結果は上がったが、常設展示の内容については結果が上がらなかった。	指標に 関する 内容		【博物館】 ◇博物館活動の根幹となる調査研究を継続し、その成果をベースとした魅力発信をしていく。 ◇記念誌をもとに博物館の使命とニーズを踏まえた事業展開をしていく。 ◇収蔵品管理システムを活用した情報発信や多言語対応をしていく。 ◇優先順位をつけて設備の更新をしていく。 【鬼の館】 ◇施設が建設から時間が経過し老朽化が進んでいる。改めて、現在の鬼の館に対するニーズを踏まえた上で、展示に関するコンセプトを整理し、来館者サービスを向上させるような展示内容や設備の更新に取り組む。 ◇小中学生、障がい者、外国人来館者向けの解説コンテンツをDX手法も活用して充実すると共に、特別展、企画展、民俗芸能公演の実施など、市民に新たな学びの機会を提供し、鬼の館の魅力向上を図る。
					指標以外 の事実	【博物館】 ・50周年記念誌を刊行し、関係機関等に配布した。 ・収蔵品管理システムを導入した。本館の屋根改修工事を実施した。 【鬼の館】 ・企画展・芸能公演を年間通して行った。また、鬼剣舞体験の場を設け、幅広い年齢層に民俗芸能の保存と次世代への継承を推進できた。 ・外国人向けの解説コンテンツとして多言語館内パンフレットを活用し、館の魅力向上を図ることができた。		指標以外 の内容	【博物館】 収蔵品を適切に管理・活用することが、魅力的な展示に繋がり、適切な施設管理が博物館の魅力向上に繋がっている。 【鬼の館】 芸能保存会との打合せを密に行い、観客への分かりやすい解説や講座を行ったこと、また、ホームページ等による広報が、来館者の増加につながった。	指標以外 の内容	【博物館】 個人で管理しきれなくなった民具等の寄贈が増加している。博物館法の改正によりデジタルアーカイブ化やその公開が努力義務となっている。施設・設備の老朽化・経年劣化が進んでいる。 【鬼の館】 県外の雑誌等への掲載により芸能公演の来館者が増えた。	

凡例    ●実績値    —期待値

指 標 ①		指標の説明									
市史の刊行(全10冊のうち8冊)		計画(全10冊)に基づく刊行									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
企画部	冊	実績値	0	1	1	3	4	6			
		期待値 ※R7は目標値	0.0	1	3	4	5	7	8.0		
		備 考							累積		
指 標 ②		指標の説明									
出前講座参加者数		出前講座に参加した人数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	人	実績値	16,545	7,678	5,154	7,291	10,390	10,821			
		期待値 ※R7は目標値	16,545	16,621	16,697	16,773	16,848	16,924	17,000		
		備 考									
指 標 ③		指標の説明									
市民大学等受講者の理解度(R3年度からアンケート項目に追加)		市民大学等受講者へのアンケート結果で講座内容を理解できたと答えた人の割合									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
まちづくり部	%	実績値	-	-	83.3	84.6	90.9	89.0			
		期待値 ※R7は目標値	-	-	83.3	86.2	89.1	92.1	95.0		
		備 考			項目設定						
指 標 ④		指標の説明									
就学前児童1人当たりの絵本貸出冊数		生涯の読書習慣の基礎となる幼少期から、本に親しむことが重要と捉え、その対象となる絵本の貸出冊数を指標とする									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
教育部	冊	実績値	21.5	20.6	21.2	23.3	24.8	26.1			
		期待値 ※R7は目標値	21.5	22.1	22.7	23.3	23.8	24.4	25.0		
		備 考	89,482冊÷4,177人(R2.3末—歳別統計における6歳未満)						参考数値: 3,390人(R6.3末—歳別統計表6歳未満)		
指 標 ⑤		指標の説明									
社会教育施設(図書館、博物館、鬼の館)の小中学生利用者数		【図書館】 図書館システムより年齢別延べ貸入数を抽出 【博物館】 博物館日計表で集計している年度ごとの小中学生利用者数 【鬼の館】 小学校1年生～中学校3年生までの子どもの入館者数を合計したもの。有料、無料すべて含めた人数									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
教育部	人	実績値	21,691	13,667	15,202	14,444	15,287	15,438			
		期待値 ※R7は目標値	21,691	21,776	21,861	21,946	22,030	22,115	22,200		
		備 考	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 17,134人 博物館 1,890人 鬼の館 2,267人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,237人 博物館 1,859人 鬼の館 1,571人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 11,238人 博物館 1,912人 鬼の館 2,052人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,592人 博物館 1,521人 鬼の館 2,331人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,417人 博物館 1,899人 鬼の館 2,971人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 10,828人 博物館 1,290人 鬼の館 3,320人	【内訳】 図書館(貸出者数7-15才) 17,500人 博物館 2,000人 鬼の館 2,700人		
指 標 ⑥		指標の説明									
来館者アンケート満足度(博物館、鬼の館)		博物館】 博物館の来館者に対して実施しているアンケートにおける満足度が高い割合 【鬼の館】 入館者を対象にしたアンケートのうち、「面白かった」と回答した人数の割合									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
教育部	%	実績値	84	90	84.5	82.5	85.5	86			
		期待値 ※R7は目標値	84	84.6	85.2	85.8	86.3	86.9	87.5		
		備 考	【内訳】 博物館 91% 鬼の館 77%	【内訳】 博物館 95% 鬼の館 85%	【内訳】 博物館 96% 鬼の館 73%	【内訳】 博物館 90% 鬼の館 75%	【内訳】 博物館 93% 鬼の館 78%	【内訳】 博物館 93% 鬼の館 79%	【内訳】 博物館 95% 鬼の館 80%		
指 標 ⑦		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑧		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑨		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑩		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑪		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑫		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑬		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑭		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									
指 標 ⑮		指標の説明									
担当部等	単位		R1 (現状値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
		実績値									
		期待値 ※R7は目標値									
		備 考									